

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



穏やかな日差しが降り注ぐ春・

このところそんなイメージはないです。もう初夏のような暑さ。

まだ体が慣れていないので、体調がどうも優れません。歳のせいかもしれません。

当院は1990年6月に開院し、今月33周年を迎えます。(パチパチ)。

開院は私が33歳の時です。医師になり9年、小児科医になり8年。それまで病院の勤務医をしていました。自分のしたい(しなければいけない?) 医療はここにはないと思います(思いこみ?)、一念発起、開業した次第です。

以来、色んなことがありました。が、苦労は馬に加えるほどありません(そんな表現はないかな)。でも、大半は忘れえました。良いことだけを

記憶に残すようにしています。

それにしてもここ数年は激変の時代でした。コロナ禍が社会を変え、私たちの診療も変えました。



当初は感染予防を徹底したために通常の感染症の発生も激減。診療は楽になっていました(経営者としては胃が痛くなっていました)。

新型コロナウイルスが次第に子どもでの流行が主になり、小児科は「発熱外来」に。さらに、当初の反動でいくつかの感染症が爆発的に流行するようになりまし。

66歳になった今でも、毎日外来で仕事をしています。朝8時半に診察室の椅子に座ったまま、昼まで腰をあげない日もザラです。私には「働き方改革」はないようです(涙)。でも、小児科医は私の天職だと

感染症情報

季節外れのインフルエンザ流行はようやく下火になりました。春先にこれほど大きな流行になることは経験したことがありません。コロナ禍で感染症全般の流行が起きなかったのも、ひとたび流行が始まると、これまでとは違った季節に起きることがあるようです。今後は例年と同じく、冬の感染症として流行を繰り返すことでしょう。

新型コロナウイルス感染症の発生数は減少し、流行が下火になっています。5類への引き下げに伴い、感染対策が不十分になり、次の大きな流行が起きる可能性が指摘されています。全数把握から全国で約5,000医療機関での定点把握(当院もこの対象)に変更され、発表も翌週後半になったために、実態が分かりづらくなっています。今後も感染予防の対応をしっかり行ってください。

感染性胃腸炎は発生数が続いています。子どもは脱水や低血糖になりやすく、ぐったりしている場合は輸液などを早めに行う必要があります。お子さんの様子をしっかりと見ていてください。

RSウイルス感染症の流行が続いています。一部の保育園での集団感染も起きています。かつては冬の感染症だったのですが、近年はむしろ夏場に流行しやすいようです。注意しててください。

溶連菌感染症、アデノウイルス感染症などが少数ですが見られています。園によっては集団発生しているところもあります。園での発生情報をお聞きになってください。

思っています。子どもたちのことを思い、子どもたちと一緒にいることが、生きがいです。人生の半分をこの医院の診察室で過ごしています。なかなか辛抱強いものです(笑)。まだ体力は続きそうですので、これからも子どもたちのために仕事を続けていきます。よろしくお願ひします。

今月の予定

院長・副院長出務

看護大学講義(臨床病態学) 7、14日

看護大学生臨床実習 20日から

上越市夜間診療所勤務 21日

上越有線放送「健康ライフ」20日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

医院ホームページ内

麻疹発生

ワクチンを確実に

先日、大人の方が麻疹（はしか）にかかったというニュースがありました。国内ではもう麻疹の発生はないものと思われていましたが、どうしたことなのでしょう。

発端者はインドからの帰国者で、新幹線で移動。さらに同じ新幹線に乗っていた複数の方が麻疹になったというものです。

日本は麻疹の排除国とされていいますが、海外では発展途上国を中心として、麻疹はさうとう流行しています。麻疹に免疫を持たない方が海外で感染を受け、それを日本に持ち込み、広げてしまうことが、今後も起こりうることです。

●麻疹は重い感染症

昔は、麻疹は子どもの頃に一度はかかる感染症でした。とても重症で、時に命を落とすこともありましたが、麻疹にかかった後に無事回復すればお祝いをしたほどです。「麻疹は命定め」と呼ばれるのもそこから来て

います。

一度かかると、強い免疫が一生続き、再度かかることはありません。

「二度なし現象」と呼ばれ、免疫学の基本です。

伝染力がとても強いのも特徴です。飛沫感染だけではなく、空気感染も起こします。そして感染すれば確実に発症します。

大人の方がかかると、子ども以上に重い症状がでます。そして、周囲に大量にウイルスをばら撒くこととなります。

●ワクチンが有効

そんな麻疹も、ワクチンがとても有効です。生ワクチンです。麻疹ウイルスを継代培養して、毒性を弱くしたワクチンウイルス。

1回の接種である程度の免疫が作られますが、自然感染で得られる免疫よりも弱いために2回接種を行います。これにより、ほぼ一生、麻疹にかからないレベルの免疫が体内に作られます。

現在日本では生後1歳で1回目、小学校入学前1年間（いわゆる年長

さん）で2回目の接種をすることになっていきます（定期接種。風疹との混合ワクチンを使います）。

生まれてくる時に母親から麻疹の免疫をもらっています（移行免疫）。

これは生後半年くらいで赤ちゃんの体内から消えて行きます（母親が麻疹に対する免疫を持っていないければ赤ちゃんの免疫はゼロ）。生後半年以降は麻疹に対する免疫がないことが多く、赤ちゃんを麻疹から守りきれていない状態です。

そのため、1回目のワクチン接種は1歳になったらできるだけ早く受けてください。

もし1歳前の赤ちゃんを連れて発展途上国に行くなどのことがあれば、先に麻疹ワクチンの接種をしておくこともお勧めします（任意接種）。

日本では麻疹ワクチンが制度的に整ったおかげで、日常的に麻疹患者を見ることはなくなりました。私が小児科医になり、また開業した当時はまだ麻疹患者の発生があり、それにより重症化した子や、待合室で移しあってしまったケースも経験して

いました。おそらく今の若い小児科医は麻疹患者を見たことがないかもしれませぬ。

●大人の麻疹予防

今回の事例のように、大人でも麻疹にかかってしまうことがあります。子どもの頃に麻疹ワクチンを受けていなかったり、せいぜい1回だけだったのかもしれない。

血液の中の抗体価を検査すれば、麻疹に対する免疫力をある程度知ることができます。しかし、数千円のコストがかかります（自費診療）し、多くの方に受けてもらうことはできません。

そこで子ども時代の接種記録が参考になります。母子手帳があれば、そこに接種記録があるはずです。2回あれば十分です。1回だけなら、ぜひ追加の接種を受けてください。

全く記録がなければ、早急に1回の接種をすませてください。2回目は時間が経ってから大丈夫です。大人の方への接種は任意になり、自費診療です。通常、小児科で対応しています。